第五十二回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪「東海道の歴史を探る追加」

「VI」10月7日（土）茅ヶ崎宿・南湖富士・弁慶塚・鶴峰八幡宮・旧相模川橋脚

（集合；I R 東海道線「茅ヶ崎駅」改札口9時50分厳守同時出発）

⑤ 9:52

行程；茅ヶ崎駅→1里塚→円蔵寺→間の宿南湖・南湖茶屋→南湖左富士→弁慶塚→参道・鶴嶺八幡宮→旧相模川橋脚→上国寺→信隆寺→バス移動バス停「今宿」（11/24, 54, 56, 12/24→茅ヶ崎駅（所要時間約10分）。

食事場所；茅ヶ崎駅南口ジョイパート1・2階「花はん」一汁三菜定食（魚と天ぷら半々予約）1370程。電話；0467-83-1031。

茅ヶ崎宿（間の宿）

藤沢，平塚宿間の間の宿として賑わった此の地には，三つの立場があった。四ツ谷（四屋），菱沼（牡丹餅），南湖（南郷）の各立場。中でも南湖のお立場は茶屋町と称されるように大きな立場です。別添散策案内図に貼り付けた絵図は東海道分間絵図（元禄3年1690）に描かれた南湖周辺の様子です「なんこ ちゃ屋かすかす」と書かれています（現在南湖1丁目周辺と言う）。

1・東海道松並木

2・一里塚（日本橋14番目）小さな可愛い一里塚復元

3・円蔵寺（高野山真言宗・本尊，薬師如来厄除大師・寺宝，不動明王図＝鎌倉期願行作）開基不明，中興開山は善誉。慶安2年（1649），徳川家光から朱印状が与えられており，江戸時代には13の末寺を持つ中本山。本尊は病気に靈験あらたかと伝う。

4・十ヶ坂（現十間坂バス停辺り）

5・第六天神社（茅ヶ崎鎮守・祭神淤母陀流毘伽神、詞志古陀泥神・例祭3月29日・神紋7曜・寺宝古刀一振、掛軸山岡鉄舟筆、庚申塔一对享和9年建・芸能浜降祭7月15日県無形文民俗文化財指定・郷土開拓時代よりの鎮座の古社・昭和14年村社）

鎌倉時代からしばしば兵火にあったほか、明治中期の大火や、関東大震災に被災し、社殿・宝物・古文書等焼失。

6・八坂神社（祇園様、本宮、京都八坂神社・祭神素盞鳴尊・悪病退散・病氣平癒・災害防止・庶民安堵）

第六天社社殿西側に祀られていたと言う八坂神社は、平成4年の第六天社本殿のご造営に際して、相殿として祀られていたことが明らかになった。明治中期茅ヶ崎大火により羅災後の再建難しく、止むなく相殿として祀られていたと思われる。この度のご造営を機会に、御神霊を蘇（ヨミガエ）りご神威の発揚を願い、此の地に奉遍されたもの。

7・間の宿南湖（ナコ・南湖一丁目辺り）・南湖の立場茶屋南湖の立場茶屋

本陣茶屋；「御小休本陣 松屋 清左右衛門」・脇本陣茶屋「江戸屋 金次郎」

茶屋；「橘屋 三次郎」，「藤屋 大五郎」，「藤屋 金蔵」，「藤屋 平八」などがあつた。大山千軒、須賀（平塚）千軒，南湖は360軒と江戸時代賑わっていた所を言った。南湖の成立は元禄から享保（1688～・～1736）頃。

本陣茶屋，御小休本陣松屋清左右衛門（二階建て表口20間）で，明治元年10月10日明治天皇が東京へ向かう途中休憩・12月9日帰京時重田屋で休息・明治8年5等郵便局開設）。

南湖名物；享和元年（1801）幕臣大田南畝（ナホ）が記した「改元紀行」に脇本陣茶屋江戸屋に立ち寄り、名物「ひしこ（片口鰯）のナマス」と「松露（茸の一種）の吸い物」を食したと記している。江戸屋の「あんこう（オハギ）」も名物だったと言う。

8・南湖左富士（案内図貼付絵参照）

1045 安藤広重の傑作「東海道五十三次名所絵図」藤沢で、南湖の松原左不二として描かれているように、江戸を発った旅人は富士山を右前方に見ながら旅する事になります。が、この南湖では東海道の左側に富士山が見えます。東海道で左富士が見える場所は、南湖と吉原の2ヶ所のみです。

9・弁慶塚（現地説明文由来・民家私有地内参詣可）

1050 武蔵国稲毛（川崎市）の領主、稲毛三郎重成が亡妻の冥福を願い相模川に橋を架け、建久九年（1198）十二月二十八日、その落成供養を行った。頼朝はその帰路、鶴峯八幡宮付近にさしかかった時、義経・行家ら一族の亡霊が現れ、乗馬が棒立ちになり、頼朝は落馬して重傷を負い、翌、正治元年（1199）一月死亡した。後年里人達は相計り、義経一族の霊を慰めるため、ここに弁慶塚を造ったと伝う。

10・鶴嶺八幡宮（祭神、誉田別命応神天皇、大鷦鷯命仁徳天皇（ワギョリョウ）・佐塚大神、菅原道真・祭礼、9月15日・社宝大銀杏樹齢数百年県記念物、樹齢950年以上？参道と松並木市史蹟名勝・芸能浜降祭、7月15日）

11015 康平年間（1058～65）源頼義が東征の際、石清水八幡宮にならい懐島郷本社丘に1社を、創建したのが当社である。その後、源氏代々の崇敬篤く、頼朝は治承年間（1177～81）懐島郷の地若干を寄進。建久年間（1190～99）、社殿修復。正保年間（1644～48）常光院の僧朝恵（チョウケイ）は、荒廃した鶴嶺八幡社の復興を、浜之郷村の領主、山岡景信の援助で、社殿を再興、慶安2年（1649）徳川幕府（3代将軍家光）から7石の朱印地を得た。昭和9年郷社に列格。境内大銀杏は源義家が戦勝祈願のため植樹したと言う。江戸時代旧暦6月29日には、南湖の浜へ御輿の浜降際が行われた。

1205 浜降祭（ハマリサイ）；7月20日（15日資料も）払暁、寒川神社を中心にして、茅ヶ崎及び寒川の神社の神輿約40基が茅ヶ崎市南湖の海岸に集合して行われる祭礼で、県の無形民俗文化財に指定される。19日宵宮、神輿へ御霊移し・翌日空が明ける頃それぞれ式場に到着・神輿は渚から海にかつがれ、禊ぎがされ、砂浜を練り回り、所定の位置に鎮座される。その後、祓いの祠から献饌（ケンゼン・お供え）の儀、祝詞（ノリ）奉上、玉串奉奠（ホケン）、撒饌（セツゼン）の儀式。

1305 女護ヶ石；女性の守護神として信仰されていた石神、体の悪いところ、願い事のある部分に※「祓えたまえ、清めたまえ」と三回心に念じながら石を撫でて、体の部分も撫でる。

1405 ガン封じ祈願石；ガン等も、を封じる霊石として信仰されている。※と同様に3回念じながら石を撫でて、体の部分も撫でる。

1505 参道松並木；朝恵は社殿再興を記念して、南大門馬場420間（約760m）の左右に松を植えました。此が、今残る参道「八丁松並木」で市史跡・天然記念物です。この松並木の美しさを、「18世鳴立庵芳女」は、「今もなお朝恵の松の若みどり」と詠んでいます。

1605 ご神木；2株1つは「榎」、周囲2丈、今は枯れて値幹部のも・もう一つは「源義家お手植え・鶴峯大銀杏、周囲1.8丈・県文化財県内一番古いと言う。

11・龍前院（法相宗→古義真言宗→永正5，1508再建，曹洞宗・懷島山・本尊，阿弥陀如来坐像）

建久2年（1191）再建で大仏殿や三重の塔が建てられ多くの僧坊があったと言
う。鶴峯八幡宮と同じ平良正の開基と伝う。墓地には浜之郷領主であった旗本山岡氏
歴代の墓と、二階堂十人墓と言われる南北朝前後の10基の五輪塔がある（1説には、
頼朝が相模川橋渡り初めに同行した警護武士が落馬の責任をとって切腹したこの1
0人の墓とも言う）。

梵鐘；茅ヶ崎市重要文化財指定，江戸時代に浜之郷村領主，山岡氏5代目景忠が親族
供養のため鑄造させたもの。元禄7年銘（1694）がり，第二次世界大戦での供
出も免れた名鐘である。

懷島郷（フコロジマ）

鶴峯八幡宮一帯は当時，大庭御厨（オハミクリヤ）のうちの懷島郷と呼ばれた。大庭御
厨は後3年の役で活躍した鎌倉権五郎景正が，藤沢の大庭を中心に開発し，伊勢神宮
の御厨としたもので，懷島はその西端にあって，相模川が乱流して作った中州と思わ
れる。景正の子孫で懷島氏を名乗った景義が郷の開発，川の氾濫鎮め，豊かな収穫，
の守護神として八幡宮を建立したと思われる。

12・梅雲寺（浄土宗・本尊，阿弥陀如来・寺宝，三宝大荒神，円仁作唐より帰国途上暴風
雨の災害を祈願船中彫刻）

明治初年にまとめられた，「皇国地誌」には，慶長4年（1599）に寺名の由来
となった広誉梅雲という浄土宗の僧が開いたと伝う。建立は長禄7年（1463）と
伝う。

13・旧相模川橋脚（国史跡）（茅ヶ崎駅バス平塚行き町屋下車10分）

11:20~19:23（大正12）関東大震災の際に、水田の中から出現、現在池が作られ保存
されている。この橋脚は鎌倉時代の1198年（故沼田頼輔博士が建久9と考証）
稲毛重三郎重成が亡妻の追善供養の為に架けた橋と推定されている。橋脚は直径60
cmヒノキ丸柱、3本横一列に並んで4列あり、そこから橋幅が7mであった事が分
かる。平成16年11月現在永久保存工事中、更に1本発見。この橋の渡り初めをし
た源頼朝が落馬して死に、後に重成も討たれている。実朝が修造させたが、相模川に
永久橋が架けられたのは1908（明治41）である。この橋脚の出現で鎌倉時代に
は相模川がここを流れていたことがわかる。又、平塚に流れる馬入川名は頼朝が落馬
し時、乗っていた馬が溺れ死んだ事からと言う。平成19年修復保存工事完了。

14・上国寺（日蓮宗・妙巖山大乗院・本尊，木造日蓮上人像，胎内頭面部後面に永正11年
3月，1514墨書市内最古，平成8年11月に市重要文化財に指定）

開山は応安7年（1374）に没した千葉県中山の法華経寺3世の日祐上人。市内
には他に、今宿の信隆寺と萩園の常顕寺に、室町時代銘日蓮坐像がある。

15・信隆寺（日蓮宗）

寛永元年（1624），甲斐武田氏の流れを汲む武田信就が先祖の菩提を弔うため
に創建した。出家した信就は信隆院日閑と名乗り，寺名とした。寛永元年の銘が刻ま
れた鰐口（社殿正面塔つるす音響具）が伝わる。

以上

バス停・今宿 11:35~49

茅ヶ崎行バス 11:49 町屋 (153回)

駅前着 12:03

昼食 = 駅前内「花はん」 12:10~

142

帰電 茅ヶ崎 13:11 ~ 大船 13:24